

広報

みしま

2020

1

January

No. 322



地域を守る
決意を新たに消防団出初式



三島町長
やざわ げんせい
矢澤源成

持続可能な暮らしやすい地域社会に向けた「新たな仕組み」づくりを進めます。

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにとって、今年一年が喜びに満ちた良い年になりますようお祈りいたします。昨年は、平成という一つの歴史が幕を閉じ、5月1日より令和という新たな時代が始まった特別な年となりました。

令和の出典は万葉集の伴旅人の作品からと言われております。「初春の令月にして、気淑風和らぎ、梅は鏡前の粉を披、蘭は珮後の香を薫らす」からの出典で令月の「令」と風和らぎの「和」をとり令和という元号が定められたと言われております。この元号の意味するものは新聞等で紹介されておりましたが、「おだやかで文化の花咲く時代」という事を強く意識したものとなっています。

東京オリンピック聖火リレールートに第1只見川橋梁ビューポイントを選択していただき、非常に喜ばしく思います。隣接町村と連携し、新しい奥会津の将来の方向性を考える機会にしたいと組織委

員会等に提案したところ承諾していた。だき感謝しているところであります。少子高齢化や雇用問題を抱えている共通課題がありますので、より一層の連携を強化し、住みやすい地域にしてい

近年、台湾を中心とした外国人の方や多くの日本人の方が、第1只見川橋梁ビューポイントを訪れています。宮下町内や早戸温泉等にも来訪者の数が増えている現実を考える時、聖火リレーを千載一遇のチャンスと捉え、世界・日本国内に発信出来るものと考えています。

そのためには、議員の皆さんや町民の皆さんと連携し、観光施設の基盤を整備していく必要があると考えます。

自分の足下の泉を掘ると常に私が言っておりますが、歴史と文化を背景とした町づくりを深化し、温故知新や不易流行のバランスを考えながら町づくりに邁進して行く覚悟であります。

ふるさと運動や生活工芸運動そして健康づくり運動や地区ブライド運動や有機農業運動の5徳の町政の内発的発展が私に与えられた宿命であると強く感じています。古くて新しい次の社会を考えるビジョンの一つになると考えています。成長社会から幸福度を重点とした成熟社会の施策になるためには、情報産業的な仕組みを、山村の振興の為に、どの様に組み立てていくのかが大きな課題であります。

以上の理念を基本として、高齢者から子どもまで、世代を超えた繋がりを作り、多様な主体の連携による、持続可能な暮らしやすい地域社会に向けた「新たな仕組み」づくりを進めていきます。

また、県立宮下病院については、建て替えも含めた新病院の機能や方向性を検討するため「機能検討委員会」が設置され、これまで医療関係者及び地域代表がそれぞれの立場で意見を出し合い議論を交わしております。過疎・高齢化の進む

奥会津地域実情に合せた「医療」「機能」とはどのようなものか、また、診療圏四町村共通課題である「地域包括ケアシステム構築」のために病院が果たす役割とは何かなど、医療面からだけでなく保健的機能面からも協議を重ねて頂いております。地域住民が安心して居住するための医療施設となるよう強く要望して参ります。

最後に、戦後の復興を支えたであろう、只見川電源開発は我々のプライドであります。このプライドを忘れる事なく、町民の皆さまの心に寄り添い、住んで良かった、住んでみたい町の実現のために全力を傾注してまいります。町民の皆さまのより一層のお力添えをお願いすると共に、皆さまのご多幸とご健康をお祈り申し上げます。挨拶いたします。



三島町議会議員
いがらし けんじ
五十嵐健二

「自治力」を高め、日々の暮らしに喜びを実感できる町に。

あけましておめでとうございます。輝かしい新春を町民の皆さまとともに迎えることができ、大変うれしく思います。年頭にあたり、議会を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

昨年中は皆様の議会に対するご理解とご協力により議会活動に精励することが出来ましたことに心から御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、全国各地で甚大な被害をもたらした豪雨と台風、特に台風十九号は、わが福島県にも激甚災害に指定されるほどの大きな被害をもたらしました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた皆様の一日も早い復旧・復興を願うものであります。

三島町においても、滝谷川・

大谷川が危険水位を超えたことにより、それぞれの流域の地区に避難勧告が発令されましたが、大きな被害もなく安堵した次第です。

現在、三島町を取り巻く環境は皆様もご存じのとおり少子・高齢化、人口減少と町政を進めていく上で大きな問題となっております。

そのような中、町では地域資源を活用する、『木の駅事業』をとおし、林業の活性化や循環型経済の構築、健康への取組みとして高齢者の皆様が元気に生活出来るための『健康寿命プラス10歳』等、問題解決に向けた様々な施策を行っております。

各地区でも地域の特徴・資源を活かしながら、それぞれに目標実現に向けた事業を行い、地

区活性化のために頑張っております。

また、町外から移住された皆様、生活工芸アカデミーの皆様、そして地域おこし協力隊の皆様、それぞれに町民と関わりを持ち活動しております。このことは、今後の町づくりに大きな変化をもたらしてくれるものと期待しております。

さらに、本年は県立宮下病院機能検討委員会の報告を受け、建替えに向けた基本計画策定や、三月には東京オリンピックの聖火リレーが行われるという、記憶に残る大きな事業も控えております。

国においては、経済の再生に向けた構造改革が進められております。地方自治体も長引く景気の低迷や少子・高齢化、人口

減少と様々な問題に直面しております。こうした厳しい環境を乗り越え、心の豊かさや日々の暮らしに喜びを実感できる町となるよう、町民の皆様と協力しながら、『自治力』をさらに高めなければならないと考えております。

さらには、時代の潮流を的確に捉え、新たな視点で町の歴史に学び、先人が幾多の苦難の中から築き上げてきた、地域の力を発揮しなければならないと思います。皆様のこれまで以上のご支援ご協力を心からお願ひ申し上げます。

結びに、三島町の限らない繁栄と本年が町民の皆様にとって飛躍の年となりますことを心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

自治功労表彰

新春祝賀会並びに自治功労表彰式は1月6日、町民センターで行われ、功労のあった次の方々に、矢澤町長から表彰状と記念品が贈られました。



自治功労表彰を受けた皆さん（前列左から）坂内綾子さんご夫妻、細堀清さん、須佐二郎さん、栗城佐さん、（後列左から）大竹克昌さん、青木正幸さん、板橋淳也さん

◆功労表彰

【教育長】

坂内 洋二様（西方）

【スポーツ推進委員】

小林 三幸様（宮下）

【統計調査員】

青木 正幸様（荒屋敷）

【消防団員】

青木 正幸様（荒屋敷）

板橋 淳也様（宮下）

大竹 克昌様（滝谷）

◆善行表彰

【児童生徒の見守り活動】

細堀 清様（宮下）

須佐 二郎様（荒屋敷）

【青少年の健全育成】

栗城 佐様（宮下）

◆感謝状

【多額の寄附】

坂内 綾子様（新潟県）

【絵画の寄附】

鈴木 貞夫様（郡山市）



町民センターで行われた新春祝賀会並びに自治功労表彰式



ものづくりを通じた相互交流

台湾交流推進事業

三島町訪問団研修視察実施報告

9月26日から29日、台湾交流推進事業の一環として、町長、生活工芸運動友の会員、会津桐タンス株式会社職員、町担当者の12名が国立台湾工芸研究発展センターを中心に4箇所の関係施設等において視察研修を実施しました。昨年9月に国立台湾工芸研究発展センターと町が友好交流協定を締結したことに基づき、今回の研修が実現しました。

ものづくりを通じて互いの交流、生活文化の知恵やものづくり技術の発展を目的とした視察研修でしたが、ものづくりだけでなくとらわれず、交流の中から文化や観光資源の発掘、雇用創出や移住等の社会的問題の解決を図ることを狙いとしています。

町では、今後も国立台湾工芸研究発展センターとの積極的な交流を図っていきます。



台湾：人口 2,378 万人
面積 36,000km²
距離 約 2,300km（三島-台湾）
移動時間 約 4 時間

視察先1

阿里山郷



三島町に似た地域性と工芸文化

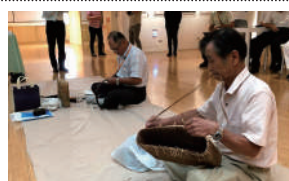
台湾で暮らす18の原住民の一つ、鄒族の暮らす村。鄒族は遙か昔に先祖が日本へ渡ったという伝説が残っている。また、かつての先人がイノシシを追いかけて、ここに辿りついたという歴史があり、イノシシをモチーフとした工芸品やモニュメントが多数ある。都市部との距離間や工芸品がある事、山間部であることなど、町との類似点が多い。籐や竹で編んだ編み組品やイノシシの木彫りがあり、木彫りについては、極小規模の工場のようになっている。

現代デジタル工具の活用

町の名誉町民、宮崎清先生の教え子である黄世輝教授が学院長を務める大学のデザイン学科。設備として、木工や金工、陶芸などの道具が揃っており、レーザーカッターや3Dプリンタ等のデジタル工具が設置されている。大学でのデザイン研究では、物の意匠や機能を考える分野と、集落や町などの暮らしをどうしたら良くなできるかを計画する分野がある。先の阿里山郷（視察先1）においても学生の研究や町おこしの協力を実施している。

視察先3

国立台湾工芸研究発展センター



友好交流の締結先であり、台湾の工人が集う場所。工芸制作者に体験や講座を開設し、ここで習った方の作品を展示販売又は店舗の貸し出しをしている。視察参加者は、日本には無い楮の紙作りも体験し台湾と町の編み組の違いをそれぞれ実演した。



また、台湾では普段からお茶を飲む習慣があり、桐の特性についての説明を行ったところ、茶葉の保存に適しているとのことから、センターの皆さんが大きな関心を示していた。

視察先4

蘭草学会

地域資源の蘭草を使った編み組細工



日本には無い三角断面の蘭草を材料として、帽子、手提げバッグ、うちわ等多品目を製造し、ヒロロ細工に似た編み方をしている。製造者は少ないが製品が豊富で、生産管理をしているとのこと。少なくなつた品物を補給できる体制が整っている。

作品の展示販売を見学した後、15分程度のメニューを体験した。

今年一年の無火災を祈願 町消防団出初式

町消防団出初式は1月5日に行われ、一年の無火災を誓いました。本部幹部と各班長、会津坂下消防署、会津坂下警察署など関係者の方々が、宮下地区の通りをパレードしました。また、保育所の子どもたちで結成した幼年防火クラブも参加し、「火の用心」と元気よく声を上げて火災予防を呼びかけました。パレード終了後、三島神社に参拝し、無火災を祈願しました。



パレードに参加した幼年防火クラブの子どもたち



楽しいクリスマス発表会になりました

歌やダンスで笑顔を贈る 三島保育所クリスマス発表会

三島保育所クリスマス発表会は、12月7日に行われ多くの保護者やおじいちゃん、おばあちゃんが来場しました。外国語指導助手のマット先生に教えてもらった英語の歌をうたい、発表会が始まりました。その後、ダンスや劇などが披露され子どもたちのかわいらしい姿に会場からは大きな拍手が送られました。最後はサンタクロースが登場し、子どもたちにプレゼントが贈られました。

重いきねをもって、よいしょ！ 三島保育所でもちつき体験

三島保育所で12月18日、もちつき体験が行われました。子どもたちは一人ずつ、きねを持ってもちをつきました。出来上がったもちは、きな粉もちやあんこもちにして、みんなでおいしく食べました。当町では「団子さし」や「サイノカミ」などの伝統行事とともに、もちや団子を食べる昔からの風習が残っています。そのような文化の中で、神様の力が宿るもちを食べ、子どもたちが健やかに成長することを願います。



一生懸命にもちをついた子どもたち



人権について理解を深めた三島中の生徒たち

相手を思いやる気持ちを大切に 三島中学校人権教室

三島中1・2年生を対象にした人権教室は12月17日に三島中学校で行われ、町人権擁護委員の二瓶厚さん（名入）と本名光子さん（西方）が講師として教壇に立ちました。授業では、1年生は他人を思いやり、尊重するという意味の「respect others（リスペクト アザース）」について、2年生はいじめをなくすためにどう行動するかについて、人権擁護委員の話や実話を元にしたビデオなどを鑑賞し、お互いの意見を共有するなどして理解を深めました。



浅岐地区で開かれた地区座談会

秦正信さんに瑞宝単光章 長きにわたり地域防災に尽力

元町消防団分団長の秦正信さん（大石田）が、秋の叙勲において瑞宝単光章を受章しました。秦さんは昭和39年に消防団に入団以来、平成13年に退団するまでの37年間、地域防災に献身的に尽力しました。昭和62年からは本部幹部を務め、部長、副分団長などを歴任しました。12月19日に行われた伝達式では、守岡文浩会津地方振興局長から長男の一夫さんと長女の白鳳和江さんに勲記と勲章が手渡されました。



守岡局長（右から2人目）から勲記、勲章を受けた一夫さん（同3人目）と白鳳和江さん（同4人目）



税金について学ぶ6年生の児童たち

ぼくたちも払ってるの？ 三島小6年生が税金について学ぶ

三島小6年生の租税教室は11月28日に行われ、町民課職員が税金について説明しました。児童たちは、消防や警察、ゴミ処理、道路や橋の建設など、生活に欠かせないものが税金で成り立っていることを学びました。また、昨年10月に消費税が10%に増税されたこと、そして消費税は児童たちが生まれる前からあり、最初は3%でしたが、社会の変化に伴って増税されてきたことを学びました。

ふるさとの味、受け継いで 郷土料理体験「おばあちゃんの味」

三島小児童たちが郷土料理を体験する「おばあちゃんの味」は11月29日、町民センターで行われ、5・6年生13人が参加しました。老人クラブ女性部の皆さんに習い、さつまいもご飯、豚汁、煮物、そうめんかぼちゃの酢の物、かぼちゃのいとし煮、かぶの漬物を作りました。出来上がると昼食会を開き、全校児童と一緒に味わいました。児童たちにとっては、普段の食卓とは材料も味も違うようでしたが、昔ながらの家庭の味をみんなで味わう機会となりました。



おばあちゃんに包丁の使い方を習いました

空き家コラム

「特定空き家」ってなに？

空き家問題が取り沙汰されるようになり、最近耳にするようになった「特定空き家」という言葉。今号では、「特定空き家」についてご説明します。



「特定空き家」という言葉は、平成 26 年 11 月に成立した「空き家等対策の推進に関する特別措置法」という空き家に関する法律から来ています。この法律で、

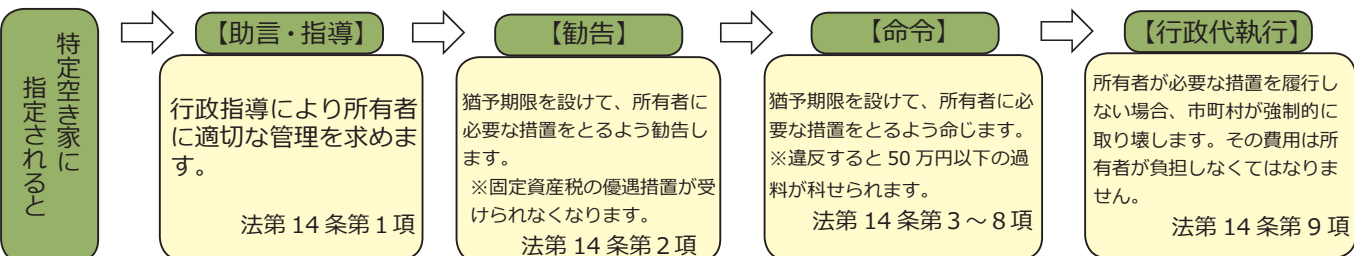
空き家とは？

居住などの使用がなされていないことが常態化（1年以上）している建築物のことをいい、よくあるケースが親の実家が挙げられます。

特定空き家とは？

倒壊のおそれのある危険な状態、著しく衛生上有害な状態、著しく景観を損なっている状態などにある空き家のことで、管理されることなく放置され、近隣に迷惑をかける空き家は、「特定空き家」とみなされます。

「特定空き家」とみなされた場合は、市町村長が所有者に対して、助言・指導→勧告→命令を出すことができ、最終的には「代執行」として、市町村が強制的に取り壊し、費用を所有者に請求することができるようになりました。また市町村長は、空き家等への調査や、所有者等を把握するために、固定資産税情報を利用することができるようになりました。



出典：服部真和監修「すぐに役立つ売却、賃貸、民泊、税金対策まで 入門図解 実家の空き家をめぐる法律問題と対策実践マニュアル」三修社

* 固定資産税の優遇措置（住宅用地特例）

小規模住宅用地（200 ㎡以下の部分）では 1 / 6、一般用住宅用地（200 ㎡を超える部分）では 1 / 3 の減額が適用されておりますが、勧告があった場合には、固定資産税額の優遇措置が受けられなくなります。

特定空き家になる前に、空き家の利活用や解体含め、空き家の適正管理をお願いいたします。

空き家の相談は随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

地域政策課 地方創生推進係 ☎（48）5533

移住者インタビュー

三島町には様々な想いを持って移住された方がたくさんいらっしゃいます。インタビューを通して、空き家の利活用や移住定住のきっかけ、三島町の新たな魅力発見につながればと思います。移住者インタビューを連載します。

その8 ときとう ま ゆ み 真由美さん (46 歳) 川井地区在住

名古屋市出身。東京都で印刷会社のオペレーターとして勤務していましたが、2015 年から 1 年間、会津若松市で養蜂を学んだ後、2017 年 12 月に三島町へと移住。2018 年 4 月には時任養蜂園として独立されました。



巣箱の中を確認する内検という作業中

『ミツバチと共に』

三島町へ移住したいきさつ
会津への移住を考えた最初のきっかけは猪苗代のマラソン大会でした。会津若松市に宿泊しましたが、ゆったりとした雰囲気、何となく深呼吸できるいい場所だなと感じました。また、同じ頃ミツバチの生態を取り上げたテレビ番組を観て、ミツバチにとっても興味を持ちました。

会津地域は養蜂が盛んと知り、会津若松市で一年間養蜂の研修を受け、その後、緑のあった三島町の桐の里産業株式会社の社員として、三島町で養蜂を始めました。当初は会津若松市から通っていましたが、巣箱の近くに暮らしたいと思っていたところ、川井地区の空き家を紹介していただき、三島町へと引っ越しました。この数年間、都会の建物の中での仕事から養蜂家に、全く新しい世界へと飛躍しました。

ミツバチのこと
ミツバチは本当に優秀で、どんな切り口からでもお話することができます。私はもともと自然や環境などについて考える方ではありませんでしたが、ミツバチを通して多くのことを学んでいます。

ミツバチは針で刺すというイメージがありますが、実はとても

平和的な生き物です。例えば、イモムシのように葉っぱを食べつくすということはありません。花を傷つけることなく、花が与えてくれるミツをエサとしていただき、さらに受粉を促します。

また、ミツバチは一つの家族として生きる社会的な生き物です。一匹の女王バチが巣の中で全てのハチを産みますが、彼女の役割は卵を産むこと。赤ちゃんのお世話には先に生まれた働きバチが行います。働きバチの一生は 30 日、40 日ほどですが、ミツを集めるのは最終段階。まずは巣作りや掃除、赤ちゃんの世話など危険の少ない巣の中の仕事をします。その後、門番を経て、危険も伴うミツ集めの仕事に出かけます。働きバチ同士でコミュニケーションをとり、美味しいミツの場所を教え合います。ハチの数が増えると分蜂といって新しい女王バチを残し、古い女王バチと半分の働きバチが新しい巣に引っ越しますが、その際も働きバチが新しい巣の候補地を探索し、多数決で良い場所を決めます。働きバチの総意が全てです。

養蜂家として
三島町には素晴らしい蜜源があり、間違いない良いものを作っているという自信があります。会津

地方の代表的蜜源の栃も多く自生しており、質の良い栃蜜が採れます。今後もっと生産量を増やしたいです。印刷会社で働いていたので、パッケージデザインなどは前職を活かしながらできますが、営業などは正直苦手です。なので、ふるさと納税の返礼品に使っていただいたり、イベントの際に声をかけていただけるのは大変ありがたいです。町の方が「美味しい」と認めてくれ、それが町外、県外の人々にも広まっていったらいいなと思っています。

まだ初めて数年。うまくいかないうちもありますが、この道でやっていくと覚悟を決めて始めたので、1、2 年やってうまくいかないからと言って辞めるつもりはありません。大好きなミツバチに関わるこの仕事は本当に楽しいです。一匹のハチが一生で集められるミツの量はティースプーン一杯ほど。そのことを思うとミツバチが愛おしくハチミツが貴重なものに思えます。一人でやっているの、出来ることをやっていくしかありません。このインタビューを通して、みなさんにミツバチのことをもっと知ってもらえたらいいなと思っています。

* 紙面の都合上、インタビューを抜粋して掲載しています。こちらで全文をご覧ください。
奥会津三島町での日々 <https://okuazumishimamachi.hatenablog.com/>

協力隊コーナー Vol. 9

山口 泰市郎

農業振興担当で桐の里産業で働いている山口です。協力隊として 2 年目の水稲収穫を終え、昨年よりも多い量を収穫できました。今年は町民向けにお米の注文販売も行い、「天のつぶ」31 袋の注文がありました。購入していただいた皆さま、ありがとうございました。

そのほか桐の里産業としては、エゴマ、そば、菌床ヒラタケの栽培を行い、いずれも昨年以上の収量となりました。

昨年より少ない 4 名のメンバーでやっています。まだまだではありますが、農業で三島町に協力したいと思いながら頑張っています。これからもご指導よろしくお願いします。



A HAPPY NEW YEAR



桐の里産業株式会社
三島町産新米
品種 天のつぶ（福島県開発品種）
玄米 1 袋 30kg 直売価格 8,000 円（税込）
注文販売いたします。

桐の里産業株式会社では、存続できなくなった町内の農地が活用されるため、本町や県内に販路を開拓しています。今年からは、お米の注文販売を行いました。

町の農業振興として、町民の皆さまに還元する意味も含めて、町民向けに新米の注文販売を行います。新米の購入を予定されている方は、三島町の農業をぜひお楽しみください。桐の里産業株式会社へのご注文をお願いします。

ご注文先は、お電話でお問い合わせください。電話 024-5220
※10月15日(火)までに注文ください。

お電話は三島町コミュニティセンター（勤務時間内）にて、10月下旬から予定しています。





健康維持と交流を図る 「高清水・小山健康を守る会」輪投げ大会

文・写真 菅家敏一さん（高清水）



高清水地区で例年行っている輪投げ大会が 12 月 15 日に開催されました。ゲームの合い間の会話は、この 1 年を振り返るようで楽しく和やかで本当にこの日を楽しみにしていたようでした。地区にまとまりがあるのは、積極的に参加しようとする前向きさを地区の皆さんがもっておられるからでしょうか。世間では少なくなっているようなふれあいの機会が高清水・小山地区にはあるように感じました。次回を楽しみに健康に留意され良い年をお迎えください。



地区委員による除雪作業の協議を行う

文・写真 本名与四郎さん（西方）

11 月 30 日、地区委員による除雪作業に関する話し合いが行われました。例年ふるさとセンターで行われる会議を会津坂下町の松林閣に場所を変えての協議となりました。土木部担当の小柴光委員により作業計画が提案され、除雪場所、除雪に係る費用などを中心に話し合いました。高齢化が進んでおり、人員確保の問題や除雪事故に対処するための保険などの課題が残りました。その後、今年一年を通して行われた活動内容についての反省と今後の活動内容についての話し合いが行われました。



早戸地区クリスマス会を開催

文・写真 橋本光五郎さん（早戸）



今年はまったく雪が無くホワイトクリスマスとは程遠い状況でしたが、今回で 3 回目となる「早戸地区クリスマス会」を 12 月 21 日、早戸生活改善センターで開催しました。今年は土曜日に開催となり、地区出身で他地区に居住されている方も 2 名が参加して昨年よりも多い 20 名での開催となりました。スパークリングワインでの乾杯の後、さまざまな料理や飲み物などが振る舞われ、豪華なクリスマス会になりました。恒例のプレゼントも用意されて楽しい時間を過ごすことができました。



～新そばの収穫祭～ そばと豆腐に舌鼓

文・写真 小島純さん（宮下）

みやした蕎麦と豆腐の会（会長：佐久間宗一）では、会の応援団を招き、12 月 9 日に宮下活性化センターで収穫祭を開催しました。宮下・荒屋敷地区の皆さんや地域おこし協力隊、生活工芸アカデミー生も参加し、打ちたての 10 割そばに舌鼓を打ちました。また、栗城佐さんによる「そば口上」も披露され、賑やかで楽しい収穫祭となりました。



広報みしま 皆さんからの情報提供をお待ちしています

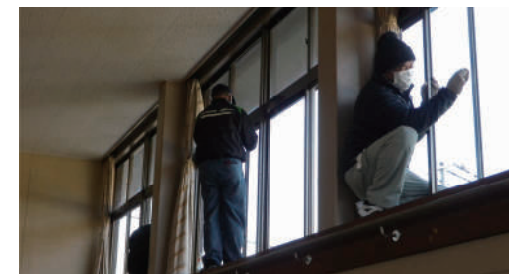
「広報みしま」は、皆さんに親しまれる広報誌を目指して編集しています。町からのお知らせを分かりやすく伝えることはもちろん、町民の皆さんの顔、声を掲載することが最も大切と考えています。「広報みしま」は、町民の皆さんのための広報誌です。いつでも情報をお待ちしています。

問 特命担当課 ☎ (48) 5232



新年に向けてのふるさとセンター清掃活動

文・写真 本名与四郎さん（西方）



12 月 1 日、ふるさとセンターの清掃活動が地区委員と婦人会の皆さんで行われました。新年に向けた清掃を行い、高窓のガラス磨きや玄関ガラス戸拭き、スリッパ拭きと普段、気がついてもしない清掃箇所をしっかりと心をこめて実施しました。小松区長を中心に参加された皆さんが協力しながら無事に作業を終了することができました。その後、きれいになった談話室にて和やかな雰囲気の中で茶話会が行われ、新年会を待つばかりとなりました。



生活工芸アカデミー生の 「my かんじき作りと手回し機のソバ打ち体験」

文・写真 菅家壽一さん（間方）



12 月 14 日、間方集会所において生活工芸アカデミー 3 期生の「my かんじき作りと手回し機のソバ打ち体験」が行われました。アカデミー生の学習の一環として、雪国の生活の必需品である「かんじき」作りを体験し、丈夫で美しいかんじきが出来上がりました。雪片しや雪山散策に使用していただき、豪雪地での快適で楽しい生活を送っていただきたいと思います。昼食は「手回し機のソバ打ち」を体験していただきました。楽しく美味しい昼食会となり、間方の食文化の一端に触れていただきました。



令和元年度の早戸地区「お楽しみ会」の活動を締めくくる

文・写真 橋本光五郎さん（早戸）

今年度の早戸地区女性陣による「お楽しみ会」は 6 月から開始され、12 月 2 日をもって今年度の活動を締めくくりました。今年は「元気でまっせ体操」と木ノ戸美和さんを講師として、クラフトバンドを使ったかご作りに取り組んできました。皆さん初めての体験で、色々と失敗もあったようですが、先生の丁寧な指導のもと、最終的には皆さん「どうにか？」四つだたみ折りでのバッグが出来ました。12 月 2 日の最終日は、形を整えニスを塗って完成し、1 年間の活動を締めくくりました。



「新そば会」でおもてなし

文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）



12 月 15 日、恒例の新そば会が多目的集会所で開催され 34 名が参加しました。「四季の会・ボランティア桧原」が主催し、代表の海老名健さんの挨拶の後、阿部和彦区長より乾杯の発声で開始となりました。地区のそば打ち名人・鈴木隆さんによる打ちたてのざるそばとけんちんそばを味わいました。また、熊汁など多くの手料理を堪能しながら、今年 1 年を振り返り楽しく語り合いました。今回のそば会に携わった皆さま、大変お疲れ様でした。



「あいしん宮下たから会」総会を開催

文・写真 小島 純さん（宮下）

「あいしん宮下たから会」（代表：佐久間源一郎）総会は、12 月 4 日に栄光館で開催されました。佐久間代表のあいさつの後、議事に入り、上程された 5 案件はすべて承認されました。総会終了後は会津坂下消防署三島出張所の古賀信広所長を講師に迎え「情報社会における地域防災」と題した講演会が行われ、参加者の皆さんは興味深く聞き入っていました。講演会の後は懇親会が行われ、杯を傾け合いながら、来年度の更なる飛躍と発展を願いました。



健康で元気な毎日に vol.38 適正な飲酒量を知っていますか？

町民課 保健福祉係 ☎ (48) 5565

新年を迎えお酒を飲む機会も多いかと思います。皆さんはご自分の適正な飲酒量を知っていますか？
○ご自分の飲酒量をドリンクで数えてみましょう！
ドリンクの数はいくつですか？

いろいろなアルコール飲料のドリンク

※純アルコール 10g で 1 ドリンク

お酒の種類	お酒の量	ドリンク数
ビール・発泡酒	コップ 1 杯	0.6
	中ジョッキ 1 杯	1.6
	350ml 1 缶	1.4
	500ml 1 缶	2.0
	大瓶 633ml 1 本	2.5
日本酒	1 合	2.2
焼酎お湯割り（コップ）	薄 め(焼酎3・お湯7)	0.9
	普 通(焼酎5・お湯5)	1.8
	濃 いめ(焼酎8・お湯2)	2.4
ウィスキー（グラス）	ロック 1 杯	2.8
	シングル 1 杯	1.0
カクテル	コップ 1 杯	1.0
梅酒	グラス 1 杯	0.3

節度ある適度な飲酒

- ・お酒の強い健康な男性は、1 日 2 ドリンク以下。
- ・お酒の弱い人、女性、65 歳以上、持病のある方は、1 日 1 ドリンクが目安。

※週に 2 日は休肝日を設けましょう！

○アルコールは適量ならいいのですが、多くなると肝臓がんのリスクを高めたり、分解されたアセトアルデヒドがタンパク質と結びつき脳や、心臓の細胞を傷めたり、高血圧（アルコールによる脱水により血管内に水分を引くこと）になったりします。
休肝日にはノンアルコール飲料で我慢するなど、適正な飲み方で健康を維持しましょう！

町史編さん室だより

第48回

今から百年前の第二回国勢調査

ご家庭に古い文書などがございましたら、交流センター山びこまでご連絡ください。
☎ (52) 2165

令和二年（二〇二〇年）が始まりました。今年は五年に一度行われている国勢調査の実施年で第二十一回目となります。第一回の国勢調査が行われたのは今から遡ること百年前、大正九年（一九二〇年）十月一日のこと。最初の国勢調査がどのように行われたのか、福島県庁にあった大正期の文書から大沼郡や現在の三島町を構成する西川村外二ヶ村組合村（以後、組合村）と西方村の取り組みがうかがえます。

国勢調査を担う調査員については、まず各市町村長が県知事宛に内申書を提出、大正九年七月二十日付で任命されました。組合村を構成する西川村からは六名、原谷村からは二名、三谷村からは五名、全体では十三名が、西方村からは十名が任ぜられています。ほとんどが現役もしくは元の村会議員や役場の助役・収入役・書記、その他校長・区長など公職に在籍している、またはしていた者から選ばれています。

国勢調査を初めて実施するにあ

たり、大々的な宣伝が全国的に行われました。県はどのような宣伝をするかも報告させており、西方村はポスターと講演会、組合村はそれらに加え活動写真会を催すとしています。掲載した表の備考から、活動写真会には多くの費用がかかり、有志の寄付によってまかなったことがわかります。また調査員をどのように慰労するののかも報告させており、組合村と西方村は銀盃を贈呈するとしています。ちなみに、大沼郡下の他町村は金銭、懐中時計、銀側時計、南部鉄瓶などとなっています。

国勢調査実施後、大沼郡長の名で福島県知事宛に提出された「国勢調査状況報告」からは郡下の実施結果がうかがえます。その報告書には二十ヶ所で活動写真会を催し、各町村で講演会やポスター等で宣伝したことで国勢調査に対する理解と認知が深まったこと、また九月二十五日には予習国勢調査を施行したこと、実際の国勢調査日である十月一日午前零時には各村が太鼓を叩く等工夫してその開

始を知らせ、その日に祭礼や豊年踊があっても避けてもらい、家を出ている者には前日夜までに必ず帰宅するように注意したことなどが記されています。在宅を促しているのは当時の国勢調査が現代のようには「常住地」を記すのではなく、その日、その時間にいた「現在地」を記入することになっていたためです。調査結果は「国民の誠意アル申告、調査員ノ誠意アル活動」により、大沼郡下では五日までに町村長に提出、二十三日までに郡役所にすべてが届けられました。郡役所においても二十七日には審査完了、二十八日を以て発送手続きを行ったとしています。

掲載した表は国勢調査にかかった組合村・西方村の費用を大沼郡全体の表より抜き出したもので、国費を上回る額を村が負担しています。大沼郡役所は町村の負担が大きいことを鑑みてか「経費ハ全部国費支弁ノコト」と国勢調査はすべて国費で支払って貰いたいとの意見を県に提出しています。

（三島町史編さん室）

○郡町村ニ於テ国勢調査ニ要セシ費用

町村名	国費	町村費	其他	計	宣伝ニ要セシ費用
西川村・三谷村・原谷村組合	95 円	165 円	100 円	360 円	106 円
西方村	63 円	90 円	—	153 円	33 円

備考：其他ニハ宣伝ノ一ナル活動写真会開催の為の町村有志寄付ヲ掲グ

※本表は明治大正期福島県庁文書『第一回国勢調査関係書類』より、大沼郡町村の国勢調査に要した費用を記載した部分を抜粋し読みやすく整えたものです。

町民センター図書コーナー

「ゆめぼけっと」から図書のご案内

図書コーナー『ゆめぼけっと』利用時間

①～⑤ 午前9時～午後9時 ⑥⑦⑧ 午前9時～午後5時
※年末年始は閉館いたします。☎ 公民館 ☎ (48) 5599

ライフ

小野寺史宜：著

誰にも頼らず一人で生きられればいいと思っていた…。主人公は 27 歳の青年。アルバイトを掛け持ちし、アパートで気ままな一人暮らしをしている。ある日、上の階に引っ越してきた家族との付き合いが始まり、主人公の人生は大きく変わっていく。



I の悲劇

米澤穂信：著

南はかま市 I ターン支援推進プロジェクト「蘇り課」の三人の職員の使命は、一度死んだ村に人を呼び戻すこと。一癖ある「移住者」たちの間で次々と発生していく謎に三人の職員が向き合う姿を描いたミステリー小説。



☆新着本

落	日
湊かなえ：著	
骨	を
吊	う
宇佐美まこと：著	
日本のヤバい女の子	
はらだ有彩：著	
1ミリの後悔もない、はずがない	
一木けい：著	

環境研だより 第18回

日本大学理工学部の学生による 交通システム導入についてのインタビュー調査



12月9日と10日に宮下地区、荒屋敷地区、桑原地区を対象とした日本大学理工学部交通システム工学科の学生による聞き取り調査が行われました。11月にも浅岐地区を対象に同様の調査を行っており、今回はその2回目となります。

調査を行ったのは交通環境研究室の星野遼太さん（修士1年）と平田結香さん（学部4年）で、今回はお二人から調査の目的や三島町への印象などについてお話を伺いましたのでご紹介します。

一三島町で行っている調査というのは具体的にどのようなものでしょうか？

星野：私たちは主に交通を通じた地域の課題解決に関する研究を行っています。昨年は町民の皆さんの普段の移動についてアンケート調査にご協力いただきました。今回は昨年に続く調査として、「自動運転車」と「住民主体の送迎システム」の2つのテーマについて聞き取りを進めています。

まず「自動運転車」についてですが、三島町も含まれる中山間地域では今後自主返納も含めて運転免許を持たない自家用車での移動が困難な方が増える予想されるため、その解決策として自動運転車が有効な手段になるのではないかと考え、研究を続けています。

今回の調査では、三島町で自動運転車を導入した場合の運用課題や町民の皆さんが利用してもよいと思える料金などについて、お話を伺っています。また、自動運転車の電源として、町産材を使った小規模な木質バイオマス発電を利用できないか、国立環境研究所とも連携しながら検討しています。

平田：私は「住民主体の送迎システム」について研究しています。三島町では現在デマンドバスが運行されていますが、利用者数や維持費用などの課題もあると伺っています。

その解決策の一つとして、時間に余裕があり運転もできる町民が中心となって、車での移動が必要な方の送迎ができる仕組みを作れないか検討しています。

一三島町で調査をしてみてどんな印象を持たれましたか？

星野：自家用車を持たないと町内での移動が大変かとは思いますが、それ以外はとても居心地の良い町だと感じました。三島町にはこれまでも何度かお邪魔していますが、回数を重ねるほど不便さを感じなくなり、住むにはとても良いところだと思います。

平田：優しい人が多いという印象です。突然の調査にも関わらず、家にあがっていいよと気軽に世間話をしてくれる方もいて、町民の皆さんの温かさに触れることができました。

また、訪問する前はもっと家が点々としているイメージでしたが、実際に現地に行ってみると集落ごとに家が集まっており、集落の中で皆さん元気に活動されているという印象を持ちました。



町民センターでインタビューをする二人(左:平田さん、右:星野さん)

星野さん、平田さんありがとうございました。日本大学理工学部による新たな交通システム導入についてのインタビュー調査は1月8日と9日にも引き続き行いました。皆様のご協力、ありがとうございました。

<筆者紹介>

常盤 達彦（ときわ たつひこ）

自動運転車を公道で走らせる実証実験の動画を拝見しました。まだ課題は多いとのことですが、子どもの頃に想像していた乗り物が現実になるかと思うとワクワクしますね。

●国立環境研究所福島支部
地域環境創生研究室 ☎0247 (61) 6572



県立宮下病院より

新年のごあいさつ



県立宮下病院長
あさの ひろし
浅野 宏

新年あけましておめでとうございます。新年の初めにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

昨年中は宮下病院等後援会をはじめ、奥会津の地域の皆様より御厚情と御支援を賜り、職員一同心より御礼申し上げます。

昨年は4月の異動により常勤医は内科医2名と外科医1名の3名になりましたが、会津医療センター及び福島県立医科大学から外来診療、宿日直の応援をいただき、宮下病院での外来、入院診療、当院からの診療応援も前年度と同様に行うことができました。

さらに、リハビリ機能の充実のため、リハビリ

機器の更新を行い、入院患者さんの身体機能の回復、外来患者さんの腰痛、膝関節痛の治療などに利用して頂いております。また、看護師、栄養士、理学療法士などによる健康教室・出前講座などでも、病気の予防・健康増進につながるようテーマや回数の増加を図っておりますので、さらに多くの方々に利用して頂ければ幸いです。

宮下病院では「心ある医療」の基本理念のもと、皆様のご要望に応えられるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年が皆様にとって、よい1年になりますように。

愛ばんしょ外来のお知らせ

「みしま健康ポイント」の対象です！
カードをご持参ください。



宮下病院では、毎週木曜日「愛ばんしょ外来」（在宅療養生活支援外来）を開設しています。

病気や障がいを抱えて家で生活する方や、家族からの介護や生活についての相談窓口

地域に住む方々が気軽に立ち寄れる交流場所の提供

地域に住む方々の健康維持・増進、介護・疾病予防のための支援

上記を目的に看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフが皆様の在宅生活のためのお手伝いをさせていただきます。

※費用は無料、予約不要です。どなたでも参加できますのでお気軽にお越しください。

月 日	内 容	講 師
1月16日⑥	・相談コーナー ・健康教室「腰痛をやっつけろ」	理学療法士
1月23日⑥	・相談コーナー ・健康教室「インフルエンザにかかったら」	看護師
1月30日⑥	・相談コーナー ・健康教室「腰痛をやっつけろ」	理学療法士

○時 間 相談コーナー：①午前9時～正午 ②午後1～午後4時 健康教室：午前10時30分～午前11時

○会 場 宮下病院 外来待合室

●宮下病院 ☎(52) 2321



会津坂下警察署からのお知らせ

なりすまし詐欺被害防止

未納料金のはがきに注意！

公的機関や債権回収業者とよく似た名前をかたり、はがき・メール・電話などで・アダルトサイトなどの未納利用料金を請求されお金をだまし取られる被害が発生しています。

昨年11月は、架空請求はがきが前月比で倍増しています。相手に連絡する前に、家族や警察に相談してください。



なりすまし詐欺について家族で話し合しましょう。自宅電話を常時留守電に設定して、なりすまし詐欺を防止しましょう。

☎会津坂下警察署 ☎0242 (83) 3451

街頭犯罪発生件数（11月30日現在）

区 分	管 内	三島町
空 き 巣	1	
忍 込 み	3	1
事 務 所 荒 し	5	
自販機ねらい	5	
車 上 ね ら い	1	1
強制わいせつ	1	
街頭犯罪合計	16	2
そ の 他 刑 法 犯 等	75	9
全 刑 法 犯	91	11

○管内では、ホイル付きタイヤが盗まれる窃盗事件が増加しています。鍵のかかる倉庫などに保管し盗難被害防止に努めてください。
その他刑法犯等には、暴行・傷害・万引き・詐欺・器物損壊などの犯罪発生件数が含まれます。
※上記発生件数は、平成31年1月1日からの累計数となっています。



消防署からのお知らせ

1月26日は文化財防火デーです

文化財防火デーの制定は、昭和24年(1949年)1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基ついています。昨年は、フランスのノートルダム大聖堂や、日本でも沖縄の首里城など、相次いで世界的貴重な遺産が焼損しました。三島町においても町指定の有形文化財が数多くあり、今年は1月26日に滝谷地区において文化財防火訓練が実施される予定です。

文化財の多くは木や紙、布など燃えやすい素材で作られているため、所有者や管理者の皆さんはもちろんのこと、周辺の皆さんも火の取り扱いには十分注意し、住民共有の貴重な遺産を後世に引き継いで行きましょう。

併せて、住民の皆様のかげがえのない思い出の品々も、火災で焼失することの無いよう、常日頃から『火の用心』をお願いします。

年末年始特別警戒実施中

令和元年12月15日～令和2年1月15日



三島 守

☎会津坂下消防署 三島出張所
—火事・救急・救助は— 電話 (52) 3032
119番まで FAX (52) 3033

三島町民生委員・児童委員、主任児童委員

氏 名	担 当 地 区	備 考
栗 城 ゆみ子	宮下	新規
湯 田 恭 子	宮下	新規
二 瓶 とよ子	荒屋敷・桑原・中平	2期目
森 田 喜美代	大登・川井	2期目
五十嵐 スミ子	桧原	新規
目 黒 恒 子	滝谷	2期目
二 瓶 正 雄	大谷【副会長】	3期目
長 郷 和 雄	浅岐・間方	新規
小 松 豊	西方【会長】	4期目
山 内 初 治	西方	2期目
秦 フジ子	大石田	新規
酒 井 いづみ	名入・小山・高清水	2期目
佐久間 絹 江	滝原・早戸	2期目

(主任児童委員)

目 黒 政 寿	全域	2期目
渡 部 規 子	全域	2期目

工人の館 利用のご案内

工人の館は、部屋と備え付けの道具を工芸制作活動を行う町民の皆さんがご利用いただけます。自宅で工芸制作が難しい方はもちろん、集まってものづくり活動を行いたい方など、ぜひ当施設をご利用ください。

- 対象者 町内に在住の工芸制作者（特別町民を含む）
- 料 金 無料
- 休館日 月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)
- 時 間 午前9時から午後5時まで(準備・片づけ含む)

☎生活工芸館 ☎(48) 5502
工 人 の 館 ☎(42) 7031

民生児童委員が改選されました

民生児童委員が任期満了に伴い改選され、12月2日、町社会福祉協議会において委嘱状交付式が行われました。任期は令和元年12月1日から3年間です。



委嘱状交付式の様子

民生・児童委員はそれぞれの担当地区において住民の相談に応じ必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めるとともに、地域子どもたちが元気に安心して暮らせるように子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談や支援などを行います。

主任児童委員は、民生委員として活動しつつ、児童に関することを専門的に担当する役割を担います。

委員の皆さんは地域の身近な相談役として、その内容に応じて関係機関への「つなぎ役」となりますので、どうぞお気軽にご相談ください。

☎町民課 保健福祉係 ☎(48) 5565

3月開講の職業訓練のご案内

■訓練生を募集しています

CAD・NCコース【ビジネススキル講習付】
電気設備技術コース【ビジネススキル講習付】

- 募 集 期 間 1月20日㊤から2月18日㊤
- 募集訓練科名 CAD・NCコース【ビジネススキル講習付】
電気設備技術コース【ビジネススキル講習付】
- 募 集 定 員 24名
- 訓 練 期 間 3月3日から8月28日まで(6ヶ月間)
- 対 象 者 公共職業安定所に求職登録されている方で、職業訓練の受講が望ましいと判断された方
- 受 講 料 無 料
- 選 考 日 2月20日㊤ 午前9時から

・訓練内容について詳しく知りたい方は、最寄りのハローワークからお申し込み下さい
※訓練生募集及び施設見学会に関するお問合せ先
ポリテクセンター会津 訓練課 ☎0242 (26) 0520

正しい操作で事故防止

毎年、雪の季節になると、除雪機による事故が多発しています。除雪機を使う際は、次の点に注意して操作しましょう。

①作業を行う前に、必ず取扱説明書をよく読んで、正しい使い方を理解しましょう。

②雪詰まりを取り除くときは必ずエンジンを停止し、回転部が停止してから、雪かき棒を使って行いましょう。

③回転部に近づくときは必ずエンジン进行を停止し、回転部が完全に止まったことを確認しましょう。

④後進時は転倒したり挟まれたりしないよう、足元や後方に十分注意しましょう。

⑤除雪作業中は、雪を飛ばす方向に、人や車、建物などがないことを確認しましょう。また除雪機の周りには絶対に人を近づけないようにしましょう。

⑥安全装置が正しく作動しない状態では使用してはいけません。また安全装置を意図的に解除したり、故障したままで使用しないようにしましょう。



㈱日本農業機械工業会
除雪機安全協議会

☎ 03 (3433) 0415

<http://www.jfmma.or.jp>

Information

パートタイム労働者・有期雇用労働者の皆さま、2020年4月より順次

パートタイム・有期雇用労働法が施行されます。

正社員と非正規社員の間の不合理な待遇差が禁止されます！

正社員と比べて、こんな差ありませんか？

「基本給→ 少」 「賞与→ 無」 「手当→ 無」

「仕方がない…」とあきらめる前に

パートタイム労働者・有期雇用労働者は正社員との間の待遇差について

事業主に説明を求めることができるようになります。

【相談窓口】福島労働局 雇用環境・均等室 ☎ 024 (536) 4609

パート・有期雇用ポータルサイト <http://part-tanjikan.mhlw.go.jp/>

ご寄附ありがとうございます

町へのご寄附（ふるさと納税）

久保田 祥平様（東京都）
井口 清志様（神奈川県）
武田 洋士様（神奈川県）
小貫 信比古様（東京都）
酒井 加代子様（会津若松市）
日下部 順子様（会津若松市）
日下部 孝治様（会津若松市）
中村 潤様（山形県）
大谷 啓介様（東京都）
坂井 孝孝様（新潟県）
山田 征子様（三重県）
馬場 昭様（東京都）
田口 有二様（神奈川県）
遠山 直人様（東京都）
角田 新作様（神奈川県）
角田 ミツエ様（神奈川県）
丹野 光明様（宮城県）

町社会福祉協議会へのご寄附
（遺志によるもの）

杉本 守様（松戸市）
池田 武夫様（宮城県）
渡部 祐哉様（大田区）
五十嵐 保正様（大田区）
小柴 喜美雄様（名入町）
小柴 喜美雄様（名入町）
菅家 哲朗様（荒屋敷）

社会福祉協議会より

社会福祉協議会よりサロンのご案内

▼ひまわりサロン

1月14日（火）10時～ 町民センター

▼大登サロン

1月14日（火）13時30分～ 大登生活改善センター

▼桧原はつらつクラブ

1月17日（金）10時～ 桧原集会所

▼サロンないり

1月17日（金）10時～ 名入集会所

▼大石田友遊サロン

1月20日（月）10時～ 大石田集会所

▼川井友愛サロン

1月20日（月）10時～ 川井集会所

▼滝谷和楽塾

1月21日（火）10時～ 滝谷集会所

▼間方いきいきクラブ

1月24日（金）10時～ 間方集会所

▼浅岐あつたかサロン

1月27日（月）10時～ 浅岐集会所

▼高清水・小山いきいきサロン

1月31日（金）10時～ 高清水集会所

▼サロンないり

2月3日（月）10時～ 名入集会所

▼ひまわりサロン

2月4日（火）10時～ 町民センター

▼大登サロン

2月4日（火）13時30分～ 大登生活改善センター

☎ 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

町の人口と世帯

12月1日現在

人口	1,601	-1	出生	1
男	787	-2	死亡	3
女	814	1	転入	6
世帯	758	-1	転出	5

③住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

お悔み申し上げます



渡部 譲（69才・大登）
五十嵐 秀子（91才・大石田）
小柴 キヨイ（90才・名入）
堀内 誠喜（90才・名入）
菅家 文弥（91才・荒屋敷）

※掲載を希望される方もされない方も、各種手続き時に『広報みしま掲載同意書』に記載事項を記入していただきます。ご協力をお願いいたします。

☎ 特命担当課 ☎ (48) 5232

1月の納税【納期限 1月31日】

▼町県民税（第4期）

▼後期高齢者保険料【普通徴収】

☎ 町民課町民係 ☎ (48) 5555

忘れずにお納めください

東京2020オリンピック 聖火リレーのルートが決定しました

東京五輪・パラリンピック組織委員会より聖火リレーのルートが発表されました。
町では、下記のルートで聖火リレーが実施されます。皆様のご声援をお願いします。

○実施日 **3月27日(金)**

○ルート ①三島中学校前～三島町観光協会駐車場（距離 1.0km）

②第一只見川橋梁展望台 スポットD（頂上）



出典：国土地理院撮影の空中写真（全国最新写真）をもとに福島県作成

12月25日、県内59市町村の聖火ランナーが決定しました。三島町からは五十嵐望くん（三島中2年・大谷）が選出されました。

※聖火リレーに関する詳細は、組織委員会より発表があり次第お知らせします。

☎特命担当課 特命担当係 ☎(48) 5232

町長日記 ～「令和2年を迎えて」～

No. 54

年が改まり寒さもひとしおつづいてまいりましたが、町民の皆様におかれましては輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中はもとより、日頃から町政運営に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、日本列島は台風による豪雨災害や頻繁に起こる地震など、自然の脅威を感じた年でもあり、「安心・安全な社会の構築」を改めて考えさせられた年でもありました。

当町でも10月の台風19号により、滝谷川や大谷川が危険水位を超えた為、滝谷・大谷・浅岐・間方地区に初めて避難勧告を発令しました。29名の避難者がありましたが、消防団や会津坂下消防署、会津坂下警察署、各区長さんや民生委員の皆さんのご協力により、人的被害はなく避難解除ができた事に安堵したところであります。

しかし、初めての避難勧告発令でしたので、12月の地区座談会でも地区の皆さんから多くのご意見や町議会での一般質問、役場内部においても反省点が出されました。それらの意見を集約し、町民の皆様への安心・安全の為に常に職員は危機感を持って対応していく事が必要であると庁内連絡会で話したところでもあります。

約200年前に大谷川の鳥海付近が土砂で堰き止められ、旧二瓶八郎宅まで水位が上がったり、金山町の沼沢地区で大地震があり、金山町の方々が宮下地区や桑原地区などで2ヶ月に及ぶ避難生活をした記述が古文書にあります。これらの歴史的背景から、今の地球環境の変動（異常気象・地震の頻発等）を考える時、安心・安全の対応策を考えていく必要があります。行政や地区、そして個人が一体となり対応策を考えていく必要があります。

令和元年12月の各種新聞では、子どもの出生数が90万人を下回ったという報道がされていました。時代は少子化による人口減少社会に向かい、こうした中で「子育て支援と教育」をさらに充実し、次の時代を切り開いていく人材を育てることが町づくりの根幹です。その為には、若者定住対策や循環型社会の実現、そして医療福祉の充実を図りながら広域交流施策を実施していく必要があります。縦割り行政ではなく総合行政として、チーム三島を構築し、これらの課題に全力で取り組んでまいります。

最後に、本年も町民の皆様と共に町政運営に邁進して参りたいと考えております。皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三島町長 矢澤 源成